

令和4年度
 県南教育事務所重点施策に関する
 調査結果について(中間まとめ)

学校教育課通信

令和4年11月7日(月) 第181号

編集・発行: 県南教育事務所 鈴木 正和

令和4年度中間調査(9月末時点)へのご協力ありがとうございました。各校・各園から挙げられた成果と課題の一部を御紹介いたします。自校・自園の取組と比較しながらご覧いただき、今後の計画の充実・改善に生かしていただきたいと思います。最終調査は1月末に行う予定です。(○成果 ▲課題(今後に向けて))

1 資質・能力の育成と学力向上 (数値目標3.5)		評価平均		
		幼稚園	小学校	中学校
(1)	①	ふくしま学力調査や全国学力・学習状況調査等の結果を分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等へ反映している。	3.1	2.9
	②	情報活用能力(情報モラルを含む)の育成について、教科横断的な視点で取り組み、評価と改善を行っている。	3.0	3.1
(2)	③	ふくしまの「授業スタンダード」を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業の工夫・改善に取り組んでいる。	3.4	3.1
	④	児童生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるようにするとともに、まとめと振り返りの時間の充実を図っている。	3.3	3.0
(3)	⑤	児童生徒が互いに認め合い、高め合う学習集団づくりに取り組んでいる。	3.3	3.2
	⑥	各種調査の結果を活用して非認知能力等の分析を行い、その結果をもとに、望ましい学習習慣、生活習慣の確立に取り組んでいる。	3.0	2.7
	⑦	自己マネジメントの育成と家庭学習の質的向上に向け、学校としての指導方針を明確にし、ふくしまの「家庭学習スタンダード」を活用している。	3.1	2.7

成果と課題
 ○教科担任制を取り入れ、教員の専門性を生かし、学力向上に努めている。(小学校)
 ○互見授業を行う際に、授業を見る視点として授業スタンダードを活用したことにより、教員の授業力向上につなげることができた。(小学校)
 ○授業と家庭学習の連動を意識した授業づくりをくり返し行ったことで、学びを生かすという意識が高まりつつある。また、学習する意欲につながっている。(小学校)
 ○児童が互いに認め合い、高め合う学習集団づくりに関して、QUテストの結果を基に、現職教育として学校全体で取り組んできた。(小学校)
 ○自己マネジメント力を高めるために、生活ノートを活用している成果が、学力向上に結びついていると考えられる。(中学校)
 ▲学力向上につながる授業力高めるために、全職員で徹底することの共有化が不十分である。(小学校)
 ▲ふくしま学力調査や全国学力学習状況調査の結果を分析、共有したが、各教科における具体的な指導の改善等は今後進めていく状況にある。(中学校)

2 生徒指導と道徳教育の充実 (数値目標3.5)		評価平均		
		幼稚園	小学校	中学校
(1)	①	不登校児童生徒を新たに出さないように予防に努めるとともに、不登校児童生徒に対しては個別の支援計画を作成し、組織的に対応している。	3.4	3.1
	②	いじめの未然防止、見逃しゼロに向けた組織的な対応と児童生徒一人一人が主体となって活躍できる魅力的な学校・学級づくりに努めている。	3.4	3.3
	③	児童生徒のニーズに応じた心のケアのため、保護者やSC、SSW、関係機関と連携し組織的に対応している。	3.5	3.6
(2)	④	重点的に指導する内容項目について家庭・地域と共有し、学校・家庭・地域と一体となった道徳教育を推進している。	2.9	2.7

成果と課題
 ○報告・連絡・相談を密にし、管理職や担任外の教員、生徒指導主事が積極的に関わり組織的に対応することで、問題の未然防止や早期解決を図ることができた。(小学校)
 ○いじめの未然防止には、教職員が機会をとらえて指導することの他に、生徒会が主体となって、いじめについて身近な事例をもとに考える機会を設けるなど、生徒が主体となって自分事として考えられるよう取り組んでいる。(中学校)
 ○「道徳の木」という全校生で友達の良い面を記入するコーナーを作り、友達の良い面を見つめる取組を毎年行っている。年々、良い面を見つめる児童が増えてきている。(小学校)
 ○授業参観の際に道徳科の授業を実施することで、保護者への発信につながった。(中学校)
 ▲道徳教育について、全体的な重点項目は「学校経営運営ビジョン」などを通して家庭や地域と共有できているが、各学年ごとの重点や、日々の取組についてはあまり発信できていない。(中学校)

3 健康マネジメント能力の育成 (数値目標3.5)		評価平均			
		幼稚園	小学校	中学校	
(1)	①	【幼稚園】「幼児期運動指針」を踏まえ、主体的に体を動かす遊びを中心とした身体活動を生活全体の中で確保している。 【小・中学校】「ふくしまっ子児童期運動指針(小)」や「体力向上推進計画書」を踏まえながら、全職員で共通理解を図り、取組を行っている。	3.3	3.1	2.7
(2)	②	【幼稚園】園全体で組織的に食育に取り組んでいる。 【小・中学校】「食育全体計画」に基づき、組織的に食育に取組、食育の授業を実践している。	3.3	3.6	3.2
(3)	③	自分手帳を活用し、自分の健康状態を把握している。	3.3	3.1	

成果と課題
 ○保育活動の中で、野菜の栽培食等実体験を通じた食育を行うことで、苦手だった野菜を食べられるようになった幼児がおり、保護者にも食育に興味関心をもってもらうことができた。(幼稚園)
 ○学校経営・運営ビジョンに健康に関する具体的な目標数値や取組方法を示すことで、コロナ禍の中でも全校を挙げて、継続的に運動に取り組むことができた。(小学校)
 ○毎月19日を自分手帳記入の日に設定している。(小学校)
 ○学校保健委員会の中で、保健委員会の子どもたちがアンケート結果から見られる健康課題について提言し、学校医等からアドバイスをいただいた。これを全校生にどのような形で伝えていこうかと子どもたちと考えていきたい。(中学校)
 ▲経験年数が少ない職員の学ぶ場が少ないことが課題である。(幼稚園)
 ▲新型コロナウイルス感染症の影響が考えられるが、肥満率が上昇している。(小学校)
 ▲自分手帳の定期的な活用が課題である。(中学校)

4 特別支援教育の充実 (数値目標3.5)			評価平均		
			幼稚園	小学校	中学校
(1) 多様な学びの場の充実・整備の推進	①	障がいのあるなしに関わらず、児童生徒(幼児)が互いを認め合い、学び合える交流及び共同学習を目指し、個別の教育支援計画等を活用し、教職員間で指導や支援の方針について共通理解を図りながら取り組んでいる。	3.6	3.5	3.1
	②	地域で共に学び共に生きる教育を目指し、全教職員に特別支援教育の理解を図るための研修や役割に応じた専門性を高めるための研修など、計画的に特別支援教育に関する校内(園内)研修を行っている。	3.5	3.2	3.1
(2) 切れ目のない支援の充実	③	進級時や進学先へ引き継ぐため、個別の指導計画による指導と評価に基づき、個別の教育支援計画を定期的に評価・改善している。	3.4	3.4	2.9
	④	要請訪問や特別支援学校のセンター的機能等を活用した支援を積極的に活用し、校内(園内)の特別支援教育の充実に努めている。	3.0	3.4	2.8
成果と課題	<p>○支援を必要とする子どもが年々多くなっており、支援の難しさも増している。「切れ目のない支援事業」を活用するなど、専門的な先生を招聘し学んでいる。(幼稚園)</p> <p>○特別支援に関する校内研修や、特別支援を要する児童の特性や支援方法について共有を図る時間を設け、学校全体で特別支援教育を推進している。(小学校)</p> <p>○年度始めや夏休み明けに全教職員で細かな情報共有を行った。また、個別の指導計画、支援計画を作成し、教職員で情報共有しながら、関わり方、指導方法の見直しに活用している。(中学校)</p> <p>▲特別支援教育に関する理解や支援の重要性は多くの職員が理解しているが、研修の機会を作ることができず、理解の深まりが充分ではない。(幼稚園)</p> <p>▲全教職員が具体的な支援方法について研修を重ねなければならない。(小学校)</p> <p>▲特別支援教育委員会や就学指導委員会等を開催して定期的に情報交換を行っているが、全体の研修を行う機会の確保があまりできていない。(中学校)</p>				

5 学校教育を支える基盤の確立 (数値目標3.5)			評価平均		
			幼稚園	小学校	中学校
(1) 教職員の服務・勤務の確立と適正な人事管理	①	教職員人事評価について、全教職員が理解し、適切に運用している。	3.6	3.6	3.5
	②	教職員組織を生かして働き方改革を推進し、職場環境の改善に努めている。	3.1	3.3	3.1
(2) 学校事故防止の徹底と不祥事の絶無	③	校内服務倫理委員会に、工夫改善を加え、効果的な取組としている。		3.4	3.0
	④	「信頼される学校づくりを職場の力で」を活用している。		3.7	3.5
(3) 地域と共にある学校づくりと関係機関との連携強化	⑤	地域住民・保護者が、学校(園)の経営方針について理解できるよう広報に努めている。	3.2	3.5	3.2
	⑥	学校評価を適切に行い、その結果を公表している。	3.7	3.5	3.2
	⑦	学校運営協議会等による学校、保護者、地域の連携促進に努めている。	3.6	3.5	3.3
成果と課題	<p>○地域の方の協力のおかげで、当幼稚園の保育に充実度が上がっている。今後も連携を継続していきたい。特に「見守り隊」の方々のおかげで交通事故無事故15,000日を達成することができた。(幼稚園)</p> <p>○校内服務倫理委員会において、輪番で「信頼される学校づくりを職場の力で」等から話題を提示し、お互いに事例検討等を行っている。それぞれ、自分事として捉え、効果的な取組となっている。(小学校)</p> <p>○学校運営協議会の取組として、子どもたちを取り巻く、ネット環境を保護者に監督してもらうべく、共通で守るべきことを示したり、家庭でのルール作りをする機会を提供したりしている。町の行政放送や広報誌で取り上げてもらうなど地域と連携しながら進めている。(中学校)</p> <p>▲昨年度より教職員の出勤時刻が早くなっているが、今後も働き方改革を進めていく。(小学校)</p> <p>▲地域の方々をどう巻き込み、協働していくかについて、次年度の教育課程編成を通して、全職員で知恵を出し合っていきたい。(中学校)</p>				

6 幼児教育の充実と幼小連携の推進 (数値目標3.5)			評価平均		
			幼稚園	小学校	中学校
(1) 保育の質の向上	①	園の実態や幼児の発達の実情を踏まえ、育みたい資質・能力を明確にし、一人一人の幼児が幼児期にふさわしい生活や体験を得られるように指導計画の工夫をしている。	3.6		
	②	幼児の発達の実情や興味・関心等を踏まえた環境構成や、幼児自らが身近な環境に主体的に関わり試行錯誤したり考えたりすることができるよう援助している。	3.7		
	③	日々の記録やエピソード、写真などを生かして評価を行ったり、複数の教職員で同じ幼児のよさを捉えたりするなど多面的に捉える工夫をしている。	3.5		
(2) 幼小連携の取組の推進	④	幼児と児童の交流の機会や、教員間での意見交換及び合同研修の機会を設けるなど、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有したり、スタートカリキュラムの編成・実施・改善等に取り組んだりしている。	2.9	3.2	
学校の成果と課題	<p>○週日案の記入の仕方を改善したり、各クラスを参観し、感想をいいあったりするなどして保育の資質向上に励むことができた。(幼稚園)</p> <p>○小学校へ幼稚園で取り組んでいる「10の姿」の発信することや、小学校の授業を参観し、幼稚園の保育参観に招待するなどしながら、連携を強化していきたいと考える。(幼稚園)</p> <p>○幼稚園・保育園の職員を招いての参観を行い、その場で情報交換も行っているため、互いの立場から児童の成長に関わることができている。(小学校)</p> <p>○隣接する幼稚園と、運動会をはじめとした行事や授業参観、児童に関する情報交換を定期的に行い、幼小連携による円滑な進学準備やキャリア教育の充実を図ることができた。(小学校)</p> <p>▲お互いに保育・授業参観等の連携をしているが、スタートカリキュラムの作成等は難しい。(幼稚園)</p> <p>▲コロナ禍で限られた研修となった。今後新入生等の準備、説明会を充実させたい。(小学校)</p>				